

北海道建築士

HOKKAIDO KENCHIKUSHI 2022.02.No294

2月号

目次

令和4・5年 新たな 実行委員長を紹介します！	1
特集 新技術紹介 [APEX・プライムアス工法]	4
女性の窓 [No.104 HOKKAIDO 建築士会 女性委員会]	6
Coffee Break	7
information	8

URL <https://www.h-ab.com/>

速報

令和4・5年 新たな 実行委員長を紹介します！

総務・企画委員会

脱コロナ

委員長

高橋 幸二



『なかった1年間』に、してもらいたいと言いつつ、2年が過ぎました。委員長としての任期も終わり、再スタートです。が、再スタートなのかと疑問でいっぱいです。振り返ると、やはりコロナ禍に翻弄され、活動も停滞していたと思います。そ

れでも、新たなスタイルが自然と構築され、遠距離などの時間的制約が、ネット利用によって、短縮された、他力本願の様な成果もあります。

さて、新たな活動方針としては、本会の目的遂行の為、委員会としての充実を図るとともに、個々の連携や支部間の交流など、象徴される全道大会の『あり方』を中心に、会の活性や会員増強に繋がりたいと考えます。主管は当委員会ですが、開催支部との連携はもとより、分科会運営の委員会との調整もあります。具体的な提案からの波及を鑑みて、最初の一步は、

開催期間や一般道民の取り込み策などから、踏み込む考えです。変わる時は、一気呵成が功を奏しますが、歴史と慣習が固い大会ですから、真摯な議論と『魅力ある会』への熱い思いで成し遂げたいと思います。

出来る人が、出来る時に、出来ない時は、出来る人を探し、応援し、出来ることから逃げないこと。これからの2年が、なかった2年間にならぬよう、委員会の仲間とともに、議論を深め、1歩を踏み込み、そして、皆様のご助言とご協力を貰えるように、重ねてお願い致します。

事業委員会

新事業「特別活動費」

委員長

丹波 泰哉



このたび、二期目の委員長を勤めさせていただくことになりました千歳支部の丹波です。引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。今期は3名が新任委員となりました。一昨年より新型コロナウイルスに何かと翻弄されましたが、今回は新しい

メンバーと力を合わせて可能な限り積極的な活動をしていきたいと考えております。

昨年度、当委員会の開催した所管事業は「主催事業」が2事業、「協賛事業」が1事業でした。そのうちの新しい主催事業が「北海道建築士会特別活動費の助成の決定に関する業務」です。ブロック会及び支部が住民や行政と一体となって活力ある地域を目指すきっかけとなるように、新たな事業に対して助成する仕組みが令和3年より施行されました。事業初年の昨年は札幌支部1件、

今年は札幌支部1件、釧路支部2件計3件に対し助成を決定しました。事業は「展示会」や「シンポジウム」と多岐に渡り、工夫を凝らした興味深い内容となっております。是非皆様にもご覧になって頂きたいと思えます。

新型株の感染拡大が懸念され、まだまだ活動の制限がありますが、この「特別活動費」が今後のブロック会及び支部活動の再開のきっかけとなり、活性化されることを心より願っております。

情報委員会

節目＝通過点

委員長

森 勝利



2014年度から副委員長を4期8年間務めさせていただきました。この間、3名の委員長のリーダーシップの下で、既存のフォーマットにとらわれない様々な新しいアイデアが採用され、情報委員会の発信力が着実

に向上したものと感じています。この流れを断ち切ることなく、新たなメンバーとともに、チャレンジ精神を忘れずに活動してまいりますので、ご支援ご協力をお願いいたします。

さて、情報委員会が主となり、毎月、会員のみなさまに情報をお届けしている会誌「北海道建築士」は、令和4年8月号で節目となる「300号」を迎えます。これまで、携わったみなさまに感謝申し上げますとともに、「あくまでも通過点」という考

え方のもと、みなさんに読んでいただける会誌づくりを続けてまいります。

また、第39回全道大会(旭川大会)から発行している「北海道建築士号外」にも引き続き取り組みたいと考えています。

ペーパーレス化が進む中で、会誌の発行を継続するのは、時代に逆行しているという見方もあるかもしれませんが、情報委員会は、毎月、貴方のもとに、印刷香のする会誌をお届けしますので、お楽しみに!!

まちづくり委員会

まちづくりの輪を全道へ

委員長

清水 浩史



前期に引き続きまちづくり委員長を拝命しました札幌支部の清水です。よろしくお願いいたします。

1期目の2年間は、新型コロナウイルスの影響により、本来の「集う」活動はほとんどできませんでしたが、「まちづくり活動事例集」の作成を通して支部の皆様との連携を深

めたり、「まちづくりフォーラム」等をオンラインで開催し、リアルでは参加しづらい方などとの交流を深めたりしてきました。今期は、この経験を活かし、リアルとオンラインの良さをうまく使いながら活動していこうと考えております。

まず本年は、「まちづくり会議」をオンラインで開催し、支部のまちづくり委員会またはまちづくりに関わられている方などにご参加いただき、各支部との連携にも力を入れていきたいと考えております。また、リアルでは、昨年オンラインで開催

した「まちづくりフォーラム」のフォローアップとして、当麻町にて現地ミーティングを開催するなど、まちづくりの輪を更に広げていきたいと考えております。

まちづくり委員会としては、こうした活動を通して、建築士として地域のまちづくりに更に寄与していきたいと考えておりますので、皆様にも、ぜひこのまちづくりの輪に加わっていただきますよう、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

青年委員会

青年らしい活動を目指して

委員長

佐々木 強志



あけましておめでとうございます。

令和4・5年の2年間、青年委員会の委員長を拝命しました北見支部の佐々木と申します。本部の青年委員会は、道東ブロック長、副委員長を経て3期目となります。どうぞ、よろしくお願いいたします。

さて、青年委員会は、昨年、一昨年とコロナ禍で活動が制限される中、事業が軒並み中止となり会員の皆様との対面も果たせず、非常に苦しい時期を過ごして来ました。この会誌が配布される頃にどのような感染状況にあるかわかりませんが、只々、感染が拡大しないことを願うばかりです。

今期の活動としては、まず、例年3月に開催している全道青年委員会連絡会議を対面で開催し、全道の青年会員が久しぶりに会う機会を作る

ことを目指しています。

昨年までの苦しかったこの2年間で充電期間と前向きに捉え、今期の青年委員会の活動が、新しい次のステップに進めるよう、微力ながら青年委員長としてお手伝いさせていただきたいと思っております。今後とも、青年委員会の活動に当たりまして、会員の皆様のご指導を賜りますようお願い申し上げます。

女性委員会

女性委員会の抱負

委員長

後藤 朋恵



前任工藤委員長の任期中は全道の高校生を対象に住教育出張講座を行い、私も微力ですがお手伝いをして建築士会という立場で出来る講座に大変魅力を感じました。出張する学校の先生の中には、事前打ち合わせの際『うちの生徒は自己評価が低い子が多くて』という先生もあり、大

人になる手前の微妙な年頃の生徒さんに声をかけて作業を進めるのは、講師の側も勇気がいる講座でした。高校生にとって将来の進学、就職のイメージは出来ていても、『自分の住まいを考える』という初めての作業は自身の生活を想像する貴重な時間となり、出来上がった作品は夢や独創性にあふれた作品が多く、楽しく充実した講座でした。

また、全道の士会のネットワークと会員のご協力のおかげで実現できた事も実感しました。

約2年間、コロナ禍で士会のイベ

ントや講習等は中止になり、今後もまだ見通しがつかない状況ですが、Web発信という新しいツールにも慣れてきました。今後も、女性委員会からは男女の別なく多くの方々に発信し、より、参加しやすく魅力あるテーマをメンバーと共に見つけて皆様のご協力と共に委員会活動を楽しんでいけたらと願っております。

当分、不慣れでお世話かけると思いますが、どうぞ、よろしくお願いいたします。

被災地応急支援委員会

地道にこつこつと

委員長

金谷 祐



平成25年 特別委員会発足から9年がたち、建築士会主催での応急危険度判定士講習会及び机上訓練を約14回開催し、被災地応急支援ネットワーク登録者が280名程度の登録となっています。より一層の支援体制を整えるためネットワークへの登録

をお願いいたします。

一昨年、昨年とコロナ禍の中での開催が中止となったことで、応急判定への関心が薄れてゆくことを危惧しています。Webでの講習会も検討してきましたが、被災地支援はwebでできるのではなく、現地での現場作業が第一と考えており、少人数からでも集まって開催できることを願っています。今年度も、道南ブロック、道東ブロックでの開催を予定しています。各支部さんからの講習会依頼も随時受け付けていますので、

要望があれば出向いてゆく所存でございます。また、前委員の方数名に応急判定の講師として登録してもらい、近隣の支部からの講師派遣の体制を整備していきます。

10年目となる今年度、歴代委員長の思いを引き継ぎ、次世代へと繋いでゆく年でもあります。派手なことではできませんが、地道にこつこつと進めてまいります。ご協力よろしくお願いいたします。

会員増強特別委員会

会員増強そして会員サービスの拡充を！

統括理事

針ヶ谷 拓己



昨年は、CPDが建設業法の経営事項審査の加点対象になったことから、パンフレットを作成して、会誌同梱やホームページ掲載とともに、全道各地の主だった建設会社へダイレクトメールを送るなど積極的なPR活動を進めました。また、各支部や会員

のみなさまにもパンフレットによるPRにご協力をいただき、誠にありがとうございました。おかげさまで、昨年は建築士会へ150名入会していただき、そのうち施工管理技士（技士会員）の方々が56名と、全体の40%近くを占める状況となりました。

近年、技士会員の方々が特に都心部で増えており、このような経審を意識されている方々へのニーズに応えるべく、手軽にCPDを取得いただけるよう、また、経審申請の際、技術者の多い企業のCPD実績証明を簡

便にできるよう、会員サービスの一貫として検討を進めているところであります。

会員増強には、新入会員を募ることはもちろん、現会員の方々が「継続して会員でいたい！」と思っただけのようにすることも大切であり、今年は、会員サービスの拡充に力を注いでいくことも必要かと考えています。

コロナ禍はまだ続きそうですが、みなさま、会員増強へのご協力、どうぞよろしくお願いいたします。

ヘリテージマネージャー特別委員会

前期報告と今期活動計画について

委員長

川原 昌彦



前期に引き続き委員長を務めさせていただきます。よろしくお願いたします。

昨年は、「北海道ヘリテージ・マネジメント専門職育成講座」の第7期講座を、コロナ禍2年目の状況の中、オンライン併用のハイブリッド講義の方法で開催しました。この新

型コロナへの感染拡大防止対策として始めたオンライン講義は、地方からの講座受講生から宿泊・交通費・移動時間等の負担軽減にも繋がったとの多くの声が聞かれました。なお、新たに北海道ヘリテージマネージャー（HM）が8名、コーディネーター（HC）が5名の計13名が修了され、平成26年第1期から合わせると合計182名となっています。

2022年においては、第8期講座開催と、登録期限（5年有効）を迎える方へ更新の呼び掛けを行う予定です。また、歴史的建造物の保存修理

に対応できるHMの育成を目的としたスキルアップ講習会の充実化についての検討や、北海道内のHM、HCの活用機会の情報提供や連携がとれるネットワークづくりへの取り組み、および歴史的建造物関係者より求めがあった場合、その調査等をHM、HCが連携して行える体制づくりについての取り組みを進めたいと考えています。それら尽力していく所存ですので今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

BIM推進特別委員会

2022年の活動について

委員長

大門 浩之



今年から新たに委員長を拝命しました大門と申します。末席の委員が突然の委員長指名を受けて驚いておりますが、北海道のBIMの普及に微力ながら役立てればと思っておりますので、よろしくお願いたします。

「BIM推進」のために当委員会が行うべき事は、①情報の共有、②導

入支援、③運用支援の大きく3つの柱になるかと考えます。

情報の共有につきましては、一昨年よりオンラインセミナー DoBIMを計12回開催し、延べ600人の方々に参加して頂きました。遠方からも参加しやすいオンライン開催は、本部事業としての全道域にわたる活動となるなどメリットも多いので、今年も引き続きDoBIMの継続開催を予定しています。

導入支援については、昨年までコロナウイルスの影響により開催を見送っていた、オンサイト（現地開催）

でのBIMソフト体験セミナーの開催を計画しています。また、BIMの導入に必要なハードウェアに関する情報も随時展開していきたいと思ます。

普及のために一番重要な運用支援について、委員会として出来る手法の検討はこれからになりますが、前任委員長が目指していたBIMの寺子屋を実現するため、そしてこの委員会が要らなくなる事を最終目標に活動していきたいと思ますので、皆様よろしくお願いたします。

地域貢献活動センター委員会

こんな時こそ地域貢献を！

委員長

鈴木 徹



昨年も新型コロナウイルスの感染拡大により、医療、経済共に大打撃を受けました。建築士会活動もほとんどの事業が縮小や中止となり、残念ながら助成金の申請はありませんでした。昨年亡くなられた“エレキの神様”寺内タケシ氏が残した言葉

で、『ギターは弾かなきゃ、音がでない』こんな時こそ皆で考え実践して行くこと大切と思ます。この委員会では、建築士会会員が参画する営利を目的としない地域貢献活動を支援し、その活動費を補助することを目的としています。対象事業は、以下のテーマに沿うものです。（詳しくはHPをご参照ください）

1. 歴史資産の保全・再生・活用
2. 景観の保全・再生
3. 居住空間の保全・整備
4. 自然環境の保全・整備

5. 福祉環境整備
6. 防災活動や防災施設の整備
7. こどもの住教育やまちづくり教育
8. 建築やまちづくりによる地域活性化
9. その他、活動センターが地域貢献活動と認めるもの

建築士会は、建築士の地域貢献活動を応援しています。お気軽にご相談ください。ご応募をお待ちしています。

新たな仕上材による「超」高耐久アスファルト防水 APEX・プライムアス工法 発売

東西アスファルト事業協同組合

1. はじめに

2020年10月に菅義偉首相が「2050年を目途に、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする」という脱炭素社会への所信表明をしました。数年前までは「脱炭素」ではなく、CO2排出を低く抑える「低炭素社会」が温暖化対策の主流でしたが、2015年のパリ協定をきっかけに、対策方針は低炭素社会から脱炭素社会に変わったといわれています。

日本においては東京都・京都市・横浜市・札幌市を始めとする492自治体（40都道府県、295市、14特別区、119町、24村）が「2050年までに二酸化炭素排出実質ゼロ」を表明しており、全ての産業においてCO2削減は喫緊の課題であると言えます。

2. APEX・プライムアス工法発売に至るまで

近年、日本は時代の変化に合わせて新しい建物をつくってきた「フロー型」から、1つの建物を長く使ってこうという「ストック型」へ変貌を遂げようとしています。CO2発生量は建築関連産業が最も多いとされており、長寿命化建築の推進により、解体・建築時のCO2発生量や製造時にCO2発生量が多いとされるセメントの使用量の削減を目的としております。

こうした時代背景において、防水工事にも高耐久・長寿命化や環境負荷低減が求められており、これら要望への答えがAPEX・プライムアス工法になります。従来、防水工事において高耐久仕様には「保護仕上げ」が採用されておりました。一般的に保護仕上げには「保護コンクリート」が多く採用されておりましたが、先述のとおり製造時には多くのCO2が発生します。また北海道をはじめとした寒冷地では「凍害」の懸念もあり、高耐久・長寿命化を図る為の新たな施策が望まれておりました。

APEX・プライムアス工法は「軽量保護仕上げ」という新たな仕上材を採用することで保護コンクリートを使用せずに最長基本耐用年数「45年」を実現した超高耐久仕様となります。また保護コンクリートを使用しないことで、CO2削減とともに屋根の軽量化を図り、建物全体に掛かる構造的負荷も低減することが出来ます。

3. 超高耐久を実現する3つの最新技術

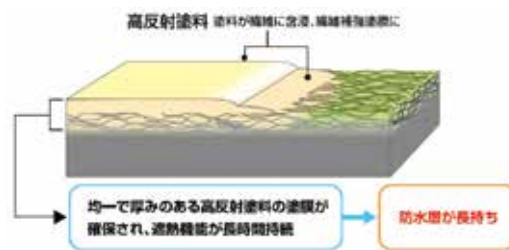
■ 軽量保護仕上げ「強力フラットフェース」

従来、「保護層を設置しない＝露出仕上げ」とい

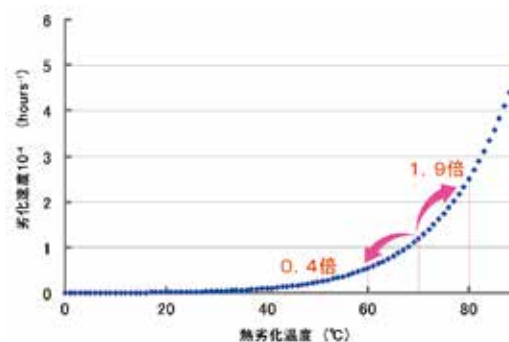
う概念が一般的でした。

それに対して強力フラットフェースは表面を繊維補強アクリル処理面材とし、高反射保護塗料を含浸させることで強固な「繊維補強塗膜層」を形成します。防水層の劣化は温度因子が支配的であることが分かっており、均一な高反射塗膜層を形成することで長期に渡って防水層を保護し、飛躍的に耐用年数を伸長することが可能となります。

【強力フラットフェース表層構成イメージ】



【温度領域ごとの劣化速度算出】

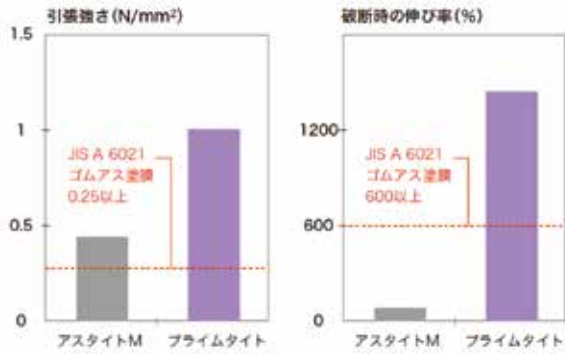


低い温度領域では劣化速度が極めて遅いのにに対して、高い温度領域では劣化速度がかなり速いことが分かります。温度上昇を抑えることによる防水層の劣化抑制効果は、温度上昇が高くなる断熱露出仕様においてこそ大きいと言えます。(2010年度 日本建築学会大会「防水材料の耐候性試験その2 アスファルト防水層の耐候性予測方法の提案」より)

■ 加温型改質アス塗膜防水層「プライムタイト」

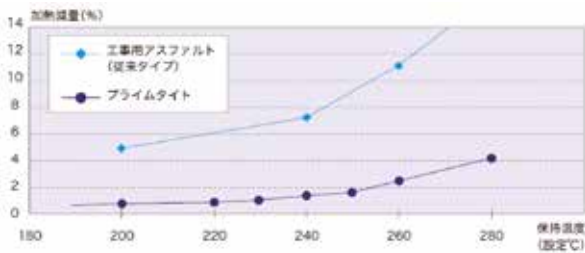
本工法で使用するプライムタイトは、アスファルトコンパウンドながらJIS A 6021（建築用塗膜防水材料）に準拠しており、加温型改質アス塗膜防水層として機能します。これにより防水層としての伸び率・下地追従性の向上にも寄与します。また従来の工事用3種アスファルトに比べてオイルミスト発生量を大幅に軽減しており、周辺環境に配慮した製品設計となっております。

【プライムタイトの塗膜性能】



試験条件：JIS A 6021 (建築用塗膜防水材) に準拠
 試験体形状：ダンベル 2号 (幅10mm、厚み 2mm)
 試験速度：500mm/分 試験温度：20℃ n=3

【従来タイプとプライムタイト溶融時の発煙・臭気】



アスファルトの煙にはオイルミストが多く含まれています。オイルミストの発生量は加熱減量測定できます。施工温度上限での加熱減量を比較すると、従来の工事用 3 種アスファルトに比べて大幅に低いことがわかります。

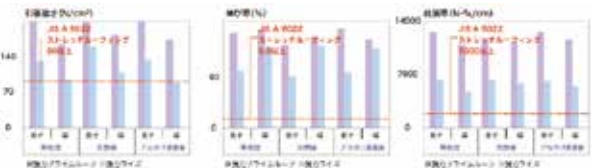
■ 高強度・高伸度「強力プライムルーフ」

3層防水が実現する超高耐久アスファルト防水 APEX・プライムアス工法。その中間層を担うのが「強力プライムルーフ」になります。柔軟なプライムタイトと高強度・高伸度の強力プライムルーフの組合せにより、下地の動きに柔軟に追従し、長期間にわたり形態を保持する耐久性を併せ持ちます。

また防水層の劣化因子には熱や紫外線劣化のほか、

下地挙動やコンクリート躯体内のアルカリ成分など多岐に渡ります。APEX・プライムアス工法のうち、3層防水仕様については1層目を部分粘着層付き改質アスファルトシート「強力ストライプZ」とすることで下地挙動を緩衝し、また屋外からの劣化因子については軽量保護仕上げ「強力フラットフェース」によって保護されます。その為、中間層である強力プライムルーフは直接的な劣化因子の影響を受けづらく、また上下にはプライムタイトによる被膜層があることで長期に渡って性能を維持することが出来ます。

【強力プライムルーフの機械的強度】



試験条件：JIS A 6013 (改質アスファルトルーフィング) に準拠
 試験体形状：長さ200mm、幅50mm
 試験速度：100mm/分 試験温度：20℃

■ まとめ

官公庁・地方自治体を中心に長寿命化建築が標準となるなか、保護コンクリートを打設せずに長期耐用が可能な防水仕様は、環境対応 (LCCO2)、およびコスト (LCC) の両面から、更にニーズが高まると推察されます。

当組合は、防水材料製造メーカー「田島ルーフィング(株)」の協力のもと、40年以上に渡って実建築物から採取した、1,300件以上の経年防水層の分析試験を蓄積しており、このデータベースから、基準となる防水層のデータを抽出し、物性と経年数の関係を導き出しております。

この実績をもとにこれからも時代のニーズに合わせた製品・工法開発に努めていく所存です。

加熱型改質アス塗膜防水工法

APEX・プライムアス工法

「加熱型塗膜防水」×「軽量保護仕上げ」
による新たな可能性

- 1.材料・工法ともに”脱炭素タイプ”
- 2.高い水密性がもたらす長い耐用年数
- 3.多種多様な納まりに対応
- 4.省力化と短工期の実現
- 5.軽量保護による凍害防止と重量軽減

防水仕様：HF X-045GF・TH
 プライムアス軽量保護断熱防湿層仕様

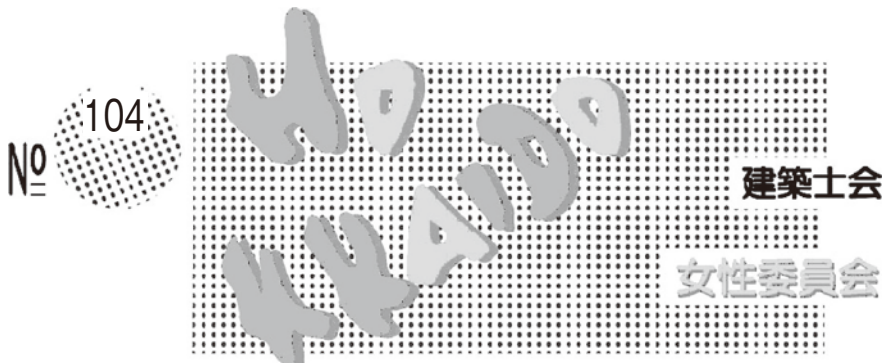
「軽量保護仕上げ」による標準耐用年数：45年

脱炭素化

高耐久・長寿命

狭小部へ対応

省力化・短工期



第63回 建築士会全国大会 「広島大会」に参加して…

川田 朱 (旭川支部)

11月20日(土) 9:30より全国大会「広島大会」がオンライン開催される運びとなり、旭川支部女性会員では市内にある老舗の花月会館(令和3年再開業)にご協力頂き、12名が集いました。当日は、密にならないよう1人1テーブルで座席がランダムになるよう配置して頂き、私たちもマスク着用、手指消毒等を徹底しました。繰り返される緊急事態宣言で事業活動も中止が続き、もちろん委員会等も開催できず、実に2年ぶりに顔を合せ対話することができました。



交流セッションの様子

会場ではスクリーンに女性委員会のセッション「和の空間の魅力を探る・・・みたび」を映し参加しました。各県のパネリストから建物紹介があり、実際に現地に行ったような気持ちになりました。又、様々な活動を企画されていて大変興味深い話を聞くこともできました。セッション後は、行ってみたいね、企画してみたいね等と、久しぶりに会話が弾みました。

この日は反省会も兼ねておりました。多人数での会食は久しぶりです。会館で昼食を準備して頂き、おしゃべり好きな私たちは、お料理の素晴らしさや近況報告など積もる話もたくさんある中、黙食のご協力頂き、静かな静かな食事となりました。



心も体も癒されたお弁当

女性会員ZOOM座談会 を終えて

工藤美智子 (札幌支部)

前年は「全道大会」の延期「女性建築士の集い」も中止となり迎えた令和3年、コロナウイルス感染拡大は収まらず、「全道大会」も「女性の集い」も中止が決まりました。会議もZOOM開催となり、楽しく会話する時間がまったく持たず、会員同士のつながりを保っていくには何をすればよいのかを考えるスタートとなりました。

お顔を見ながらのZOOM会議は必要な会話しかしないのでスムーズに進行でき予定時間に終了できます。でも、なんとなくあっけないというか、心が乾いているような一抹の寂しさを感じていました。

そこで、議題のある会議ではなく、女子会のように皆でおしゃべりのできる場として6月26日、9月4日、12月11日の全3回の座談会を企画しました。ただ、「土曜日の午後2時間おしゃべりしましょう。」では、運営上心配でしたので、まず30分程度の、ちょっと役立つミニ講座、その後雑談タイムにしました。WEB開催なので地域に関係なく女性会員ならどなたでも参加できるようにしようと考え、案内書を全女性会員へ郵送し参加募集をしたところ、各回15名程度の申し込みがありました。

ミニ講座は女性会員が担当し、第1回は函館支部の岩崎さんによる『かしこい写真の整理方法』第2回は釧路支部の金子さんによる『備えている？あなたを助ける

備蓄品』第3回は札幌支部の南海さんによる『資料作成の小ワザ』でした。

私をはじめ、ZOOMの使い方が良くわからないまま、恐る恐る参加している方もいましたので、初回は、マイクをミュートにする方法、自分の名前表示を変更する方法、チャット機能の使い方、賛成などの反応方法、画面上お化粧しているように見える加工方法、背景画像を使う方法、ブレイクアウトルームの体験など、色々試すところから始めました。

アナログ人間の私などは、回線が切れると困ると思い、それまでは只々つながったままの画面でどこにも触れずに過ごしていましたが、色々なことができるのに驚いてしまいました。

ミニ講座も、ちょっと知りたのお得情報を、仲間内で話す感覚で伝えていただき、質問や体験談、雑談タイムもやわらかい雰囲気ですぐ過ごすことができました。

無駄話と言われがちな、ちょっとしたおしゃべりの時間は、人と人をつなぐのに気持ちの上でも大きな役割を担っていたことを実感しました。

この会誌が皆さんのもとに届いている今は、どんな状況でしょう。楽しく仲間づくりができています？



第3回の参加者

名寄支部

名寄支部の近況

副支部長

照井 秀樹



名寄支部の近況を報告いたします。

例年では1月末に支部総会が開かれ、例会後に懇親会という流れで開催していましたが、昨年は新型コロナウイルス感染症対策との事で、役員だけによる開催となり、懇親会は中止となりました。

その他にも様々な活動が中止となりましたが、建築士の日の事業である支部会員の親睦を図る焼肉懇親会は密にならない等対策を行

い開催することが出来ました。

名寄支部は名寄市、下川町、美深町、音威子府村、中川町の1市3町1村で構成され、会員数は正会員45名、技士会員2名と名寄産業高校建築システム科1校にて活動していて、毎年卒業設計表彰を事業として行なっていたところですが、昨年は支部会員の参加をコロナ感染予防のため自粛しました。

また、名寄産業高校は一昨年に電子機械科と建築システム科が統合し1クラスとなった事と、公立高等学校配置計画により名寄高校と再編統合し、名寄高校校舎を使用した新設校になる事が決まって

いるため、今年の卒業設計表彰が最後になると思われます。

また、ここ最近では高齢による退会や地域経済の停滞による人材離れ、建築士取得者が少ないなど会員数の減少が顕著であり、なかなか支部事業を行う事、支部運営が困難な状況になっているところであり、会員数増のため更なる創意工夫により魅力ある建築士会名寄支部を築く事が必要と思われます。

皆様におかれましてもコロナ禍で活動が制限される事と思いますが、健康に気を付け建築士会を盛り上げるべく頑張りましょう。

余市支部

余市の今

坂本 慎太郎



現在、人類を脅かす世界的パンデミックにより我が日本、そしてこの北海道においても社会活動や経済活動全般にわたり甚大な被害を受けているのは言うまでもありません。各支部においても同様に様々な場面で苦慮されていることと思われま

す。そんな中、我がまちについて少々ご紹介をさせていただきます。平成30年12月、後志自動車道(余市IC~小樽JCT)が開通して以来、人流・物流の増加が肌

で感じられるようになりました。近隣都市の札幌まで1時間ほどとなり、通勤圏内ともなりました。これにより、土地価格の高い都市部に建てるよりも、総合的に考慮すると多くのメリットがあるのでと推測しております。現に、分譲宅地「余市まほろばの郷」では毎年多くの新築住宅が建てられています。また、ニッカウキスキーはもちろんのこと、余市川さくら並木や観光果樹園など様々な名所がある中、まだまだ知られていない素敵なスポットが多く、そんなまちに住んでみるのはいかがでしょうか。現在ではSNSの発達により多くの方々がまちの魅力を

発信され、これまで以上に素敵な発見や出会いが身近に感じられると思います。最近では新規のカフェやレストラン、お食事処などもオープンしており少しずつではありますが、我がまちも活気づいていると感じております。#(ハッシュタグ)余市などで検索いただければ新たな発見があるかもしれません。

どの地域においても、まちの発展に「住まいや空間」は必須だと考えます。次代へ繋げるために、その担いに少しでも力になれるよう邁進して参ります。#よいち

■ 事務局からの報告 ■



正副会長・担当統括、専務、常務理事・実行委員会委員長 『合同会議』 開催する！

令和4・5年実行委員会委員長の初顔合わせと言える、執行部との合同会議が令和4年1月18日(火)15時00分から、万全のコロナ対策を施した札幌ガーデンパレス2階の広めの「丹頂」で対面式(web併用)会議を開催しました。

会長はじめ19名の出席のもと、高野会長の挨拶があり、次に各実行委員長の自己紹介をして頂きました。

続いて、議題1として令和4年の各実行委員会の事業計画の概要と委員会活動費支出の各実行委員会の予算額について説明をしました。次に、議題2として令和4・5年実行委員会の課題について、各実行委員会で検討していただくよう高野会長からお願いがありました。

今回の実行委員長は、再任が5名、新任が5名であります。新実行委員長の紹介は、本会誌トップページに掲載してあります。また、実行委員会名簿は、本会誌3月号に掲載しますのでご覧下さい。既に、新メンバーによる実行委員会活動が始動しております。益々の活動の躍進を期待致します。(コロナに負けるな・・・)

道士会の動き

道本部の主な会議報告（1月）

◆第1回青年委員会

〈開催日〉1月22日(土)

- 〈議題〉1) 令和3年事業報告・決算報告、令和4年事業計画・予算
2) 全道青年委員会連絡会議
3) 青年建築士の集い
4) 全道大会青年サミット
5) 全道大会C分科会
6) その他

◆まちづくり小委員会

〈開催日〉1月29日(土)

- 〈議題〉1) 令和4年事業計画

関係機関等会議参加予定（2月）

7日(月) CPD評議会（東京） 上記 高野会長

講習会・セミナーのご案内（2月）

監理技術者講習

16日(水) 札幌市

建築士定期講習

18日(金) 北見市

建築士試験「設計製図」合格者（北海道）

	実受験者	合格者	合格率
二級建築士	382名	155名	40.58%
一級建築士	245名	73名	29.80%

“会員専用ページ”でオンデマンド配信中！



■視聴方法：北海道建築士会HPの上記「会員専用ページ」をクリックしパスワードを入力

■2月パスワード：Tom016

編集後記

2月4日開幕の2022北京オリンピック。前回大会では、フィギュアスケート男子シングルの羽生結弦選手、スピードスケート女子500mの小平奈緒選手、同女子団体パシュートの菊池彩花選手・佐藤綾乃選手・高木菜那選手・高木美帆選手、同女子マスタートの高木菜那選手が金メダルを獲得。今大会も多くのドラマが生まれることと思いますが、注目しているのは、スキージャンプの高梨沙羅選手と小林陵侷選手。K点越え連発を期待。

情報委員長 森 勝利（日高支部）

CPD認定プログラム(1月認定)

◆令和3年度CLT設計技術研修会（オンライン）

〈日程及び会場〉2月9日(水) 9:00~12:00

〈単位数〉3単位

◆令和3年度CLT施工技術研修会（オンライン）

〈日程及び会場〉2月9日(水) 13:30~15:30

〈単位数〉2単位

◆令和3年度CLT構造設計研修会（オンライン）

〈日程及び会場〉2月10日(木) 10:00~16:00

〈単位数〉5単位

〈問合せ先〉日本データサービス(株) TEL 011-780-1121

◆令和3年度 建築・住宅セミナー

〈日程及び会場〉2月22日(火) 13:30~15:30

〈単位数〉2単位

〈問合せ先〉(一財)北海道建築指導センター TEL 011-241-1893

◆北海道の建築技術向上のための講習会

〈日程及び会場〉2月24日(木) 10:00~15:00

〈単位数〉4単位

〈問合せ先〉(一社)北海道建設業協会 TEL 011-261-5185

令和4年 （一社）北海道建築士会会員作品の募集

みなさんの手がけた建築作品を広くアピールしてみませんか。

応募作品のすべては、本会ホームページに掲載します。

また、その中から4点程度を選考し9月発刊「北海道建築士No.301」に掲載します。

多くの会員の応募をお待ちしています。

※応募要項など詳細は、3月発刊「北海道建築士No.295」に掲載。また北海道建築士会HP（<http://www.h-ab.com/>）では、第1回～9回の作品も見ることができます。



昨年の作品

情報委員会委員長／森 勝利
副委員長／前田 繁・立花智亜喜
委員／今村 敏彦・境谷 香奈・角張 隆昌
村山 賢司・徳留 裕敏

北海道建築士 No.294号

印刷 令和4年1月／発行 令和4年2月

編集・発行 一般社団法人 北海道建築士会
〒060-0042 札幌市中央区大通西5丁目11番地
大五ビル
電話 (011) 251-6076番
URL <https://www.h-ab.com/>

印刷 株式会社 正文舎
〒003-0802 札幌市白石区菊水2条1丁目
電話 (011) 811-7151番